

COVID-19 起源調査： 米国下 院特別小委員会 最終報告書

100万ページの証拠が示す「研究所流出」と
システムの隠蔽の全貌



結論：武漢ウイルス研究所（WIV）からの流出

Dossier Summary	
CONCLUSION	
	調査規模: 2年間にわたる調査、100万ページ以上の文書解析 (2024年12月4日公表)
	最終結論: COVID-19の起源は武漢ウイルス研究所からの流出である可能性が「極めて高い」
	決定的事実: 最初の市中感染者が確認される前の「2019年秋」、武漢ウイルス研究所の研究者複数名がCOVID-19と同様の症状で病院を受診。

これは自然発生の悲劇ではなく、人為的な研究と安全管理の失敗である。

証拠の対比：自然発生説 vs. 研究所由来説

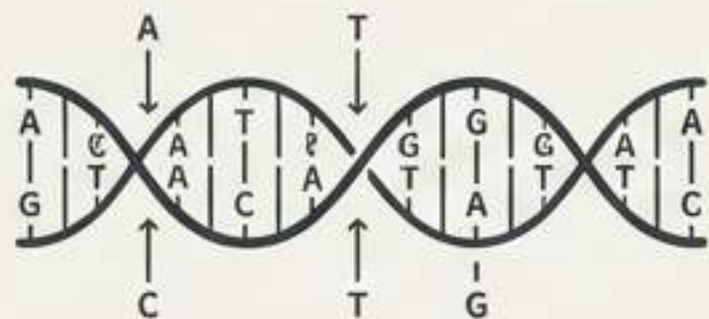
評価項目	自然発生説	研究所由来説
ファーリン切断部位の存在	近縁のコロナウイルス871種の中で、この構造を持つものは「ゼロ」。	✓ 人工的に同部位を導入する計画書（DEFUSE提案）が実在。
祖先ウイルス / 中間宿主の発見	市場での感染動物や祖先ウイルスは一切未発見。	✓ 研究所内で該当ウイルスの遺伝子設計図を保有。
初期感染のクラスター	動物市場での自然交雑を仮定（証拠なし）。	✓ 2019年秋、研究所スタッフの集団発症という物理的証拠。

決定的な生物学的証拠：DEFUSE提案と「ファージン切断部位」

The Blueprint



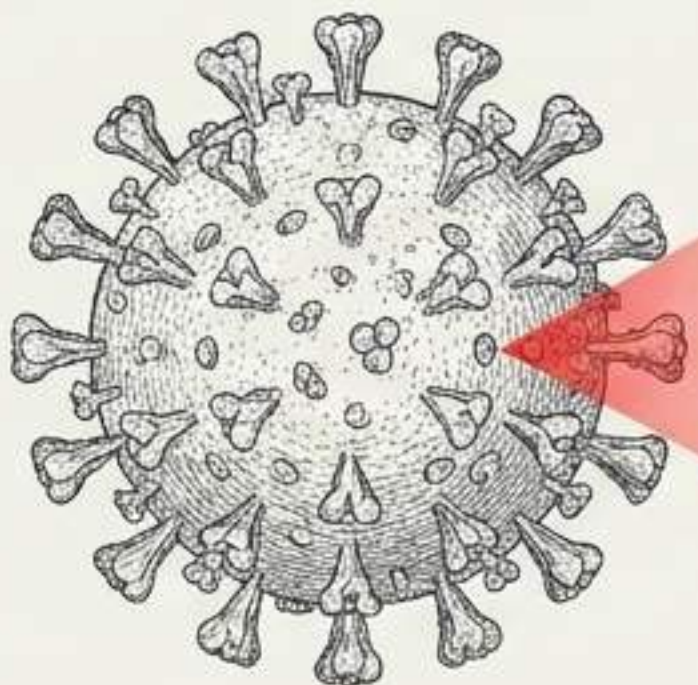
DEFUSE提案
(2018)



EcoHealth AllianceとWIVが、コロナウイルスに「**ファージン切断部位**」を人工的に組み込む計画を提案。

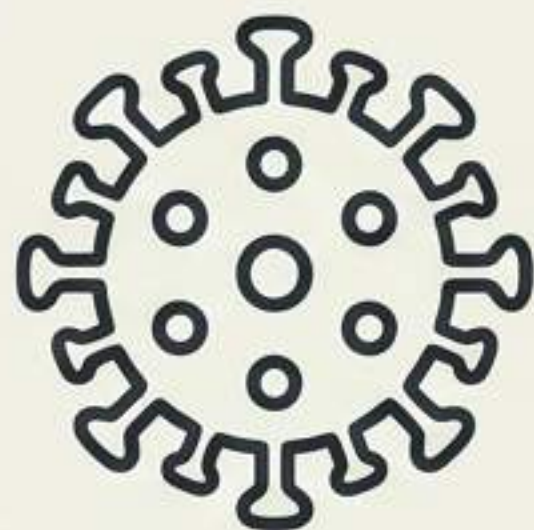
計画された設計図が、実際のウイルスに実装されていた。

The Reality

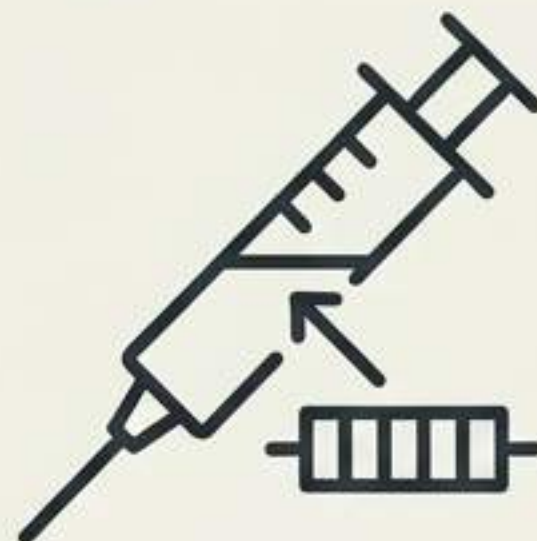


SARS-CoV-2のスパイクタンパク質には、自然界の近縁種（871種）には存在しない「**ファージン切断部位**」が完全に一致する形で存在している。

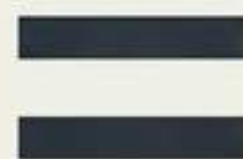
機能獲得研究 (Gain-of-Function) という名の時限爆弾



コウモリ由来のベースウイルス



人工的なファーリン
切断部位の挿入



致命的なキメラウイルス

致死率の強化

感染マウスの生存率を「25%」まで低下させる危険な実験。

致命的な安全基準

これほどの危険な実験が、歯科医院レベルの比較的低いバイオセーフティ基準である「BSL-2」施設内で実施されていた。

ウイルスの病原性と伝播力を人工的に極限まで高める実験が、不十分な安全環境下で行われていた。

資金の不透明な流れと責任の所在

米国立アレルギー・感染症研究所
(NIAID) / アンソニー・ファウチ



危険な研究への資金提供。
後にFOIA（公文書公開法）
逃れを図り記録を削除（側近
のメール記録で裏付け）。

助成金の交付

EcoHealth Alliance



資金を中抜きし、危険な
実験結果の報告を約2年間
遅延。NIHを誤導。

サブグラントと
監視義務の放棄

武漢ウイルス研究所（WIV）



BSL-2環境下での無謀なキ
メラウイルス作成（機能獲
得研究）。

現在、米国厚生省（HHS）はEcoHealthへの助成金停止手続きを開始し、司法省（DOJ）が調査中。

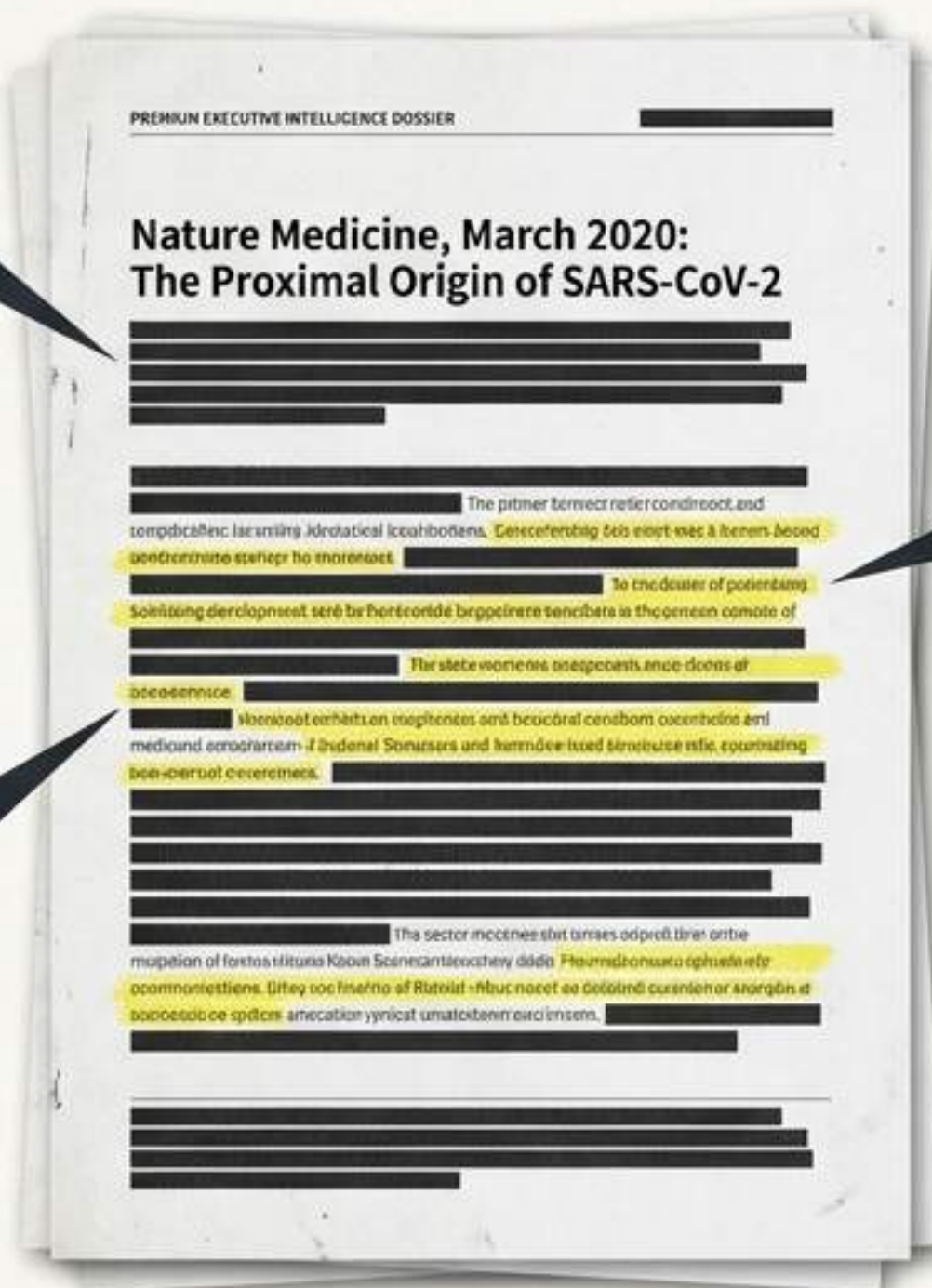
情報操作：「Proximal Origin」論文による隠蔽工作

指示 (The Directive)

アンソニー・ファウチ氏や
フランシス・コリンズ氏らの
指示により急遽起草。

起草者 (The Author)

クリスチャン・アンダーセン氏
らが起草。「研究所由来説」を
根拠なく否定し、火消し工作
の主軸として利用された。



真の動機 (The True Motive)

科学的検証よりも「中国批判の
回避」や「規制への飛び火回
避」という政治的配慮が優先。
(下院小委員会の一次資料・
Slack履歴等で判明)

科学的真実の探求ではなく、政治的・組織的保身のための「論文」であった。

国際機関の機能不全：WHOによる初期対応の失敗



台湾からの「ヒト間感染のリスク」に関する早期警戒メールを無視。



WHO公式SNSにて「ヒトからヒトへの感染を示す明確な証拠はない」と発信（中国政府の主張をそのまま踏襲）。



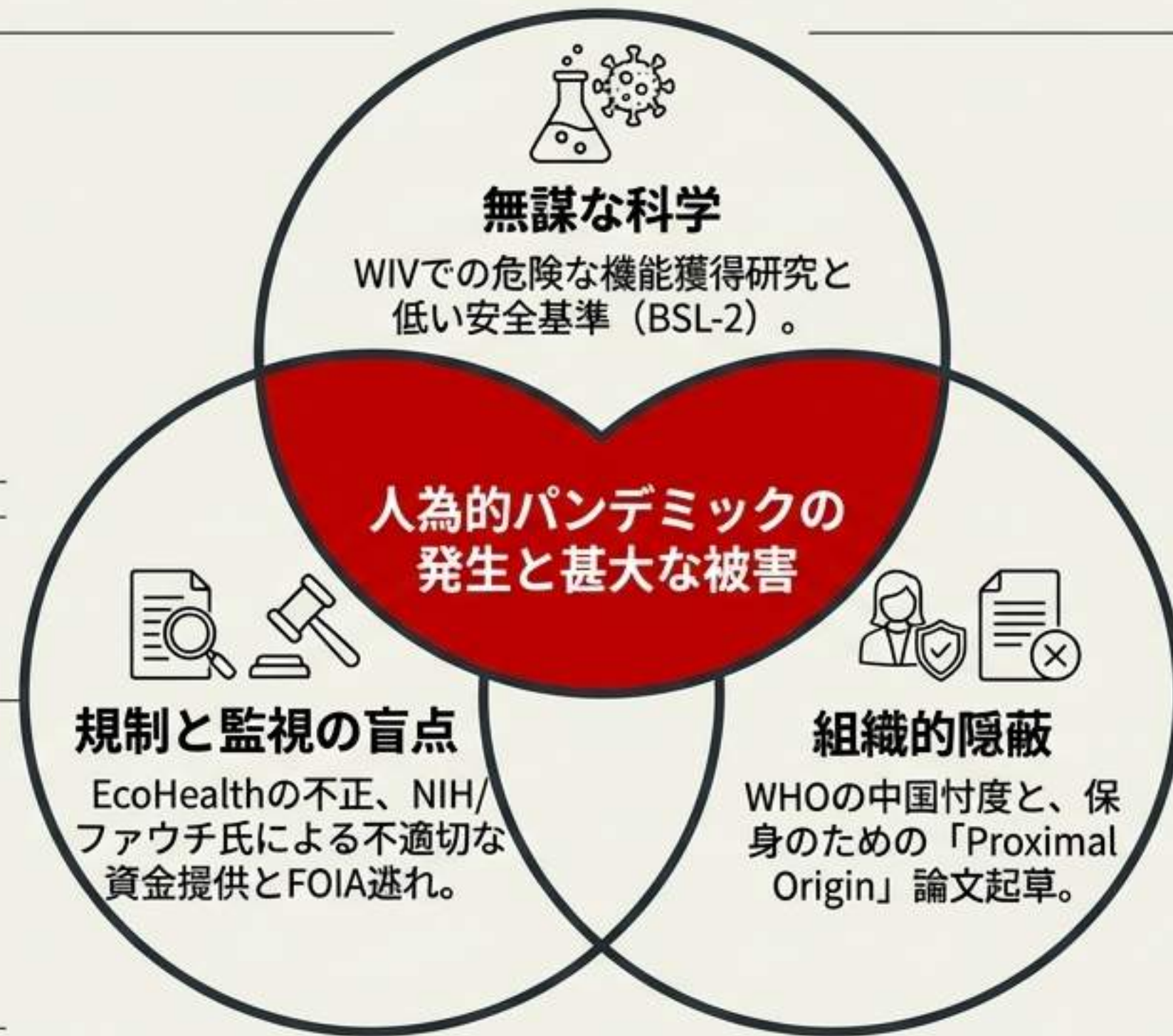
公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）の宣言を意図的に遅延。

中国政府への過度な配慮が初期の警告を封じ込め、世界的な感染拡大を防ぐ唯一の機会を奪った。

結論：パンデミックを引き起こした「3つのシステム崩壊」

WIVでの危険な機能獲得研究と低い安全基準（BSL-2）。

EcoHealthの不正、NIH/ファウチ氏による不適切な資金提供とFOIA~~漏れ~~とFOIA逃れ。



WHOの中国付度と、保身のための「Proximal Origin」論文起草。

WHOの中国付度と、保身のための「Proximal Origin」論文起草。複合的な人災である。

COVID-19は単なる「ウイルスの流出」ではなく、科学の傲慢、監視機関の怠慢、そして国際機関の隠蔽が重なった複合的な人災である。